

ならやま昆虫観察会

8月7日(水)「ならやま」にて自然教室チーム初めての「昆虫観察会」が行われました。

講師は会員の木村裕さん、菊川年明さん、お二人の昆虫博士です。大人16名、子供2名の参加があり、大いに賑わいました。最初に講師から「みなさん今日は子供になってください、何でもいから捕ってください」と言われました。木村班と菊川班に分かれ、BCを中心に、捕虫網と虫籠を下げて左右に散らばって行きました。みんな昔を思い出し、蝶、トンボ、バッタなど虫籠に入れては喜んでいましたが、「ちょっとこちらへ来てくださ〜い」と木村講師の呼び声が。集まった所は朽ちかけた木の株です。

講師がソーッと株の皮をめくられると、ナガ



ニジゴミムシダマシが静かに動いています。朽ち木などが好きな虫たちです。近くにはゲジゲジ風の幼虫が沢山います。これらの幼虫も親と一緒に、この株をおいしそうに食べています。不用の朽ち木などを分解してくれる、頼もしい虫たちなのです。しばらく眺めた後、株を倒すと、蟻たちが大慌て！それぞれが頭に白い物を載せて右往左往しています。私たちはそれが卵だと思い込んでいましたが、なんとそれは蛹だそうです。大切な蛹を抱えて、降ってわいた災難に、何処へ逃げようかと慌てふためいているのです。

次に木村講師に連れていかれた所は、トイレの裏です。ペットボトル半分くらいの中に、小肉片を入れて土に埋め、落とし穴が仕掛けてあります。雨除けの蓋を取ると強烈な悪臭が付近に漂います！！なんとこれが好物の虫たちが集まっているのです。オオオサムシ、シテムシ、エンマコガネなど死骸を好む虫たちです。これらの虫は「ならやま」で成仏した沢山の動物たちの死骸を処理してくれる有難い虫たちなのです。



自転車道沿いにあるコナラの粘着トラップにベッコウバチが付いていました。この蜂は土に穴を掘って巣を作り、なんと獲物に麻酔をかけて穴に運び込み、生きたままの獲物に卵を産み付けるのです。卵が孵るとその獲物を食べて大きくなるとか！獲物は麻酔がかかったまま食べられるのです・・・。因みに子育ての準備をするのは母親だけだそうです。(父親は何処へ?)

BCに戻りみんなの籠を並べて、講師に同定していただきました。蝶、蛾：ヤマトシジミ・ツマグロヒョウモン・など12種 トンボ：ウスバキトンボ・シオカラトンボなど8種 バッタ：ショウリョウバッタ・ヤブキリなど9種 蜂、虻：ドロバチ・シオヤアブなど6種 甲虫：シロナンテンハナムグリ・マメコガネなど4種 肉だい好きな虫：エンマコガネ・ミイデラゴミムシ(屁を放る)など9種 粘着トラップ：クチキムシ・ゴマフカミキリなど4種 その他に ジョロウグモ・コハンミョウなど全54種。

又、蟬の抜け殻で クマゼミ・アブラゼミ・ニイゼミなどの見分け方も教わりました。

私たちの見えない所で大切な働きをしている、無数の昆虫たちがいることを教えていただき、自然の営みに感動した楽しい観察会でした。

木村さん、菊川さん、大変お世話になりました。

(青木 幸子)

